

氏元胞果おとろ集りやうるい免角上
杉^{こしやん}_{カキ}門^{カキ}景勝ふこそ無悲隔くおあし
義^{うけたまひ}ふりもや城後^{カキ}留をりお上杉^{カキ}殿
深味^{カキ}言^{カキ}法^{カキ}さんとはくくやんれども個^{こゝろ}がえ
このちまきバ免角といふ角は日程を違ふ
くまがゆは免角通りくある人々^{カキ}傳^{カキ}を
望^{カキ}ハぬ何^{カキ}ぬ^{うた}学^{カキ}用^{カキ}うんやん急^{カキ}く上
秋^{カキ}及^{カキ}り入^{カキ}りて^{カキ}連^{カキ}新^{カキ}紀^{カキ}傳^{カキ}文^{カキ}を^{カキ}傳^{カキ}わ

氏元胞果抄 寄集りやんるハ免角上
杉^{こしもん}葉^{くわんろ}門 景勝公に之無悲深くハあし

ふけたまは

義よりとて城後略を訂せし上杉殿

五味子散とほろやんねども
同くね

12

そのちをバカ角といふ角は日影を透す

[illegible]

字ハ如河
 浮る自るうん急上

せんせん

松屋より
よもぎ連判紙法天を偲め

紙後國持第一上杉内右衛門進一と
景勝と大に結びお庄を雲守重長と
大剛の侍をたねとて千石をね
係をひきよる限れどもは尾浦
の殿とて兩人侍はくまふと山形へまゐ
ると上杉れは義光もつた鬼鹿^{くま}と
信時と二百金銀とを所領とて
まゐると義光も後任者たてて進